



2025.11 ポスター
中津みらい月間
<https://x.gd/B6ZzT>

2025/11 中津みらい 月間 まなびの里 まちごとキャンパス

11月 毎週（土）（無料）
13:30 - 15:00



11/22（土）新博多町交流センター 13:30～16:00

「福澤諭吉を当時の人々はどう受け入れたか」－ 人びとは福澤諭吉をどう理解したのだろうか －

内田茂男氏 千葉商科大学理事長

「福澤諭吉から学ぶ、まちおこしの文化」－ 福澤諭吉の考え方、まちおこしの文化とは －

影浦亮平氏 千葉商科大学准教授 国際センター長

プロフィール

内田 茂男(うちだしげお)

1965年慶應義塾大学経済学部卒業、日本経済新聞社入社

編集局証券部、日本経済研究センター、東京本社証券部長、論説委員等を経て、2000年千葉商科大学教授就任

2011年より学校法人千葉学園常務理事(2019年5月まで)

千葉商科大学名誉教授

経済審議会、証券取引審議会、総合エネルギー調査会等の委員を歴任

主な著書

『ゼミナール 日本経済入門』（共著、日本経済新聞社／第28回 日経・経済図書文化賞受賞）

『昭和経済史(下)』（共著、日本経済新聞社）、『新生・日本経済』（共著、日本経済新聞社）、『日本証券史3』、『これで納得!日本経済のしくみ』（単著、日本経済新聞社）、『新・日本経済入門』（共著、日本経済新聞出版社）ほか

福沢諭吉の精神と日本社会

2025・11・22 内田茂男

本テーマの問題意識

- 福沢諭吉の精神が“経済大国”日本の礎を築いた
- つい15年ほど前（2009年）まで、日本はアメリカに次ぐ世界第2の経済大国（GDPで世界第2位）だった。1968年（昭和43年）に当時の西ドイツを抜いて以来、40年余にわたって「第2の経済大国」を維持した。（cf.エズラ・ボーゲル「Japan as No.1」 ロバート・ソローらMIT研究者による「Made in America」）
- その土台は儒教（朱子学）に縛られていた日本社会に、西洋文明の近代合理主義の考え方を植え付けなければ日本の独立も危うい、と訴え続けた福沢諭吉の主張が浸透していったからだと考えられる。

福沢諭吉の西洋近代主義との遭遇

- 福沢諭吉（1835-1901）は徳川時代と明治時代を半々に生きた。
- 1855年（安政2年）：大阪の適塾（緒方洪庵）で蘭学を学ぶ
- 1858年（安政5年）：江戸・築地に蘭学塾
- 1859年（安政6年）：横浜で英語に遭遇 「外国人の経営している店にいったみたが、ちよつとも言葉が通じない。店の看板も読めない。何を見ても私の知っている文字というものはない」（「福翁自伝」）。以後、英語を猛勉強。
- 1860年（万延元年）：幕府の渡米使節に通訳として咸臨丸で同行（1860年1月－同年5月）
- 1862年（文久元年）：幕府の遣欧使節団に通訳として渡欧（1862年1月－1863年1月）：帰国後、「西洋事情」執筆刊行（1866年・慶応2年初編）

「西洋事情」で伝えた近代文明（1）

- ・「西洋事情」は1866年（慶応2年）初編刊行。1870年（明治3年）まで全10冊。全部で15万部以上が販売され、明治維新期の知識人や官僚に大きな影響。
- ・西洋の発展の状況を客観的な観察眼をもって広範に見聞、取材。克明なメモをもとに執筆、出版。（ジャーナリスト福沢の誕生）
- ・西洋では都市から村落まで学校がある。官営もあり民営もあり。教師には給料が支払われる。ロンドンのキングス・カレッジは学生500人。

「西洋事情」で伝えた西洋文明（2）

- 新しい事情を記した新聞が発行されている。新聞記事は速報性重視。蒸気機関を使って1時間15000部印刷。蒸気機関車等で迅速に全国に配達される。
- 蒸気機関車、蒸気船が縦横に運航されている。ロシアのペテルブルグからパリまで750里を21時間で走った。
- 情報の流通――>議論の発展――>技術革新――>文明の発展
- ――>福沢の言う「交通」の重要性：情報の流通とコミュニケーション、及び蒸気機関車、蒸気船など物理的な交通手段（「民情一新」（1879年・明治12年）：「時事新報」）

福沢諭吉が開国主義者になった背景

- ・ 1862年（文久2年）、幕府の渡欧使節団の一員としてロンドンに滞在中に、日本駐在のイギリス公使（ラザホールド・オールコック：日英修好通商条約にいる初代イギリス公使）が日本人に対して行った差別的で乱暴な行為を非難し告発した「建言書」を、イギリスの1民間人が議会に提出したことを知った。
- ・ 「外国政府は無理難題を言ってくるが、国も人も平等のはずだ。「建言書」を読んで、世界は鬼ばかりではない。公明正大、優しい人もあるものだ、と思って開国が正しいという思いを強くした」

福沢渡欧当時の不穏な日本社会 ーオールコック襲撃事件

- 1861年（文久元年）8月7月5日の夜、水戸藩の脱藩浪士が江戸のオールコックの公邸（品川の東禅寺）を襲撃20数人の死傷者発生。公使は無事。「家を取り巻く150名の護衛は誰一人としてわれわれを助けにこようとはしなかったのだ」（オールコック「大君の都」第30章）。
- 当時は攘夷を唱える討幕派の浪士が日本中で暴れていて外国人の外出はきわめて危険な状況だった。ー1860年（万延元年）3月「桜田門外の変」（時の井伊直弼大老を江戸城桜田門外で暗殺）
- オールコックは中国勤務のあと前後3年日本駐在。1862年ロンドン万国博に日本を出展させるなど日本文化を高く評価。

空前のベストセラー「学問のすゝめ」

- 1872年（明治5年）初版刊行。1880年（明治13年）まで17編の小冊子として刊行。
- 「（初版は）日本の人口三千五百万人に比例して、国民百六十名の中一名は必ずこの書を読みたる者なり」「（全発行部数は）今日（1880年）に至るまでおよそ70万冊にして、そのうち初版は20万冊に下らず」
- 全発行部数は全編で340万部と言われている。現在の人口に引き直すと約1200万部
- 1872年8月学制発布で文部省が指定した標準教科書に選ばれた（標準教科書38点のうち7点が福沢諭吉、6点は小幡篤次郎など福沢門下の著作物）

「すゝめ」の要点（1）

- 天賦人權論：「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといへり」。原典はアメリカの独立宣言「--all men are created equal,that they are endowed by their Creator--」
- 「されど今広くこの人間の世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきものあり、富めるものあり、貴人もあり、下人もありー」
- 「賢人と愚人との別は、学ぶと学ばざることによりできるものなり」

「すゝめ」の要点（2）

- 実学の効用：「学問はただ難しき字を知り、解しがたき古文を読み――実のなき文学をいうにあらず」
- 「一科一学も事実を押さえ、そのことにつきその物に従い、近く物事の道理を求めて、今日の用を達すべきなり」
- 「学問の要は活用にあるのみ。活用なき学問は無学に等し」
- 「一身独立して一国独立すること」：「人々この独立の心なくして他人の力に寄りすがらんとのみすれば、全国の人みなよりする人のみにて、これを引き受くる者はなかるべし」
- 「自由独立のことは人の一身にあるのみならず一国の上にもある」
- 「政府は依然たる専制の政府、人民はやる気がない。これでは日本の独立は危うい」

「文明論之概略」の要点

- 「議論の本位を定むる事」：議論するにはなんのための議論か、判断の基準はなにか、を明確にしなければ意味がない。盾の両面を見て客観的に議論すべきだ。
- 自分（福沢）の「議論の本位」は、文明に向かって進むのか、そうでないのか、である。
- 文明の進歩とは国民の精神（智徳）が全体としてすることだ。
- 文明の進歩は「自由な多事争論」から出てくる。（徳川体制では集団で議論することはご法度だった）
- 日本は西洋文明を目的として発展すること。

ジャーナリスト、福沢諭吉（1）

- 1882年（明治15年）日刊新聞「時事新報」発行
- 独立不羈（誰にも頼らない）の精神を掲げ、権力に迎合せず、自由な言論を貫く。高い取材力を武器にした報道の正確性、速報性で社会的信頼を得た。初代社長は中上川彦次郎（福沢の甥。後の三井財閥総帥）、2代目は次男の福沢捨次郎
- 福沢諭吉は社論（社説）を無署名で連日執筆。5千編以上。
- 英ロイター通信と独占契約、海外報道に力。
- 経営の独立維持のため広告重視。購読料比較高一高級紙
- 昭和初期まで5大新聞の一角。

ジャーナリスト、福沢諭吉（2）

- 時事新報で「帝室論」（1883年 明治15年）、「尊王論」（1889年 明治21年）
- 皇室は政治の領域外の超越的存在。日本国民の精神的中核であり、一切の政治的決定の世界から天皇を棚上げすべし。
- 時事新報で官主導の「教育勅語」反対論（1890年 明治33年）
- この年、帝国憲法発布、帝国議会開設、教育勅語公布
- 福沢諭吉は「教育勅語」は「学問のすゝめ」に代わって、「孝」「忠」を中核とする儒教的教育の復活をめざしたものとみていた。

福沢諭吉の最大の障壁は儒教だった

- ・ 「福沢好き」を標榜した丸山真男（元東京大学法学部教授）「福沢諭吉の哲学」（岩波文庫）
- ・ 「福沢が新日本建設の素材となるべき欧州市民文化の移入普及と国民に深く根差した封建意識の打破とに渾身の力を注いでいたときに彼の前に最も強靱な障壁となったのは儒教思想だった」
- ・ 明治14年（1881年）の政変：福沢と同じく英国型議会制民主主義を主張した大隈重信を伊藤博文（首相）、井上薫が追放。薩長閥政治体制が確立。薩長体制は1890年（明治33年）の帝国憲法、帝国議会開設で完成。――>議会制民主主義は戦後まで持ち越された。
- ・ エマニュエル・トッド：長子相続の直系家族主義の伝統のある日本、ドイツは自由民主主義になじみにくく権威主義になりがち（「西洋の敗北」）